林太郎先生 ー女性教育・研究者育成に尽くした化学者ー

Professor Taro Hayashi: A Chemist Who Made Efforts to Women's Education and Female Scientists Training

井口洋夫 Hiroo INOKUCHI

ありし日の林太郎氏

林太郎先生は，大正14年(1925)に東京大学理学部化学科を卒業された私の大先輩である。私は林先生と中学・高校（旧制）・大学と同門のため，特に先生に親しくして戴いた。中でも，先生が委員長を務められた裳華房の化学選書の編集委員会に加えて戴いたのが，先生の謦咳に接する初めての機会であった。

光化学（化学発光とフォトクロミズムの機構の研究（1964年：日本化学会賞））の研究者林先生は，お茶ノ水女子大学教授として，40年（1927～1968）間，女性教育者及び研究者の育成に全人生を投入された方である。先生の薫陶を受けた方，そしてその方針を受継いで次の世代を育成されている方々は日本全国各地で活躍されて居られると思う。

林太郎先生の女子教育に対する情熱と，そして女子研究者育成に対する思い入れを具現化した基金に林基金（正確には公益信託林女性自然科学者研究助成基金）がある。この基金があまり世に知られていない理由の一つに，明治の人，林先生の「成果がでればよいのだ。地味に人材を育てたい」の信念がそうさせているかと思う。

林先生は，この基金が正式に発足する前，先生を誠心誠意支えて来られた御夫人を亡くされ，その思いを，研究助成による女性研究者の育成で具現すべく私財を投入され，基金を三井信託銀行に託された。その第一回の助成金贈呈は，昭和58年（1983）のことであった。

若者のように元気で居られた先生は，昭和63年（1988），熱海の海岸にスケッチに行かれる途中で自動車事故に遭われて亡くなられた。先生の遺言によって殆どの財産が基金に追加され，財団の活動は一気に拡大された。平成2年（1990），当初から財団の中核だった斉藤一夫教授（東北大学教授）を筆頭に多くの大学教官によって，運営が進められた。その概要は次の通りであった。

林基金の事業内容

区分	事業内容	1983～2007年の間の助成実績
研究助成	研究助成金の給付 （40才未満の若手研究者に力を入れる。）	280件（総額36,365万円）
研究奨励金 （林フェロー）	1）博士研究員 年額200万円 2）博士課程在学者 （それに準ずる者） 年額100万円	博士研究員　11名* 博士課程在学者　74名
渡航費の補助	国際研究集会 （或いは海外研究機関での共同研究）への渡航費補助	123件（2,468万円）

*平成12年（2000）中止し，林基金に共鳴されて発足された公益信託山村富美記念女性自然科学者研究助成基金に受継がれ，現在に至っている。尚，山村富美様は，林先生の東大理学部化学科の同級生山村四郎氏（鮫島研究室）の夫人で，林・山村両氏の間には親交があった。

本基金はその活動期間を30年とし，その完了の時期には「男女共同社会が実現する」ことを念じて，女性研究者，教育者支援を続けている。しかし，残された後数年では，当初の期待の実現は容易ではないとの思いは消えない。

しかし，平成20年（2008）9月26日，七大学が主催で，「男女共同参画社会に向けて　ー女性研究者支援を通じた基幹大学の役割ー」の会が学士会館で開催された。各大学からは，それぞれ女性教官や研究者の充実の実現に向けての方策の力強いメッセージが発せられた。七大学総長が全員壇上で並ばれて力強い支持を表明され，男女共同社会実現に向けて様変わりの変化が起こる予兆を強く感じた。

何としてでも，林太郎先生，山村富美様ら先達の意気込みを，より多くの方に伝え，男女共同参画社会の実現を期したいと思っている。

井口洋夫 Hiroo INOKUCHI

宇宙航空研究開発機構・顧問
学士会・常務理事
理学博士

東京大学理学部大学院修士課程終了
専門は物理化学（有機半導体）.
E-mail: inokuchi.hiroo@jaxa.jp

©2009 The Society of Polymer Science, Japan